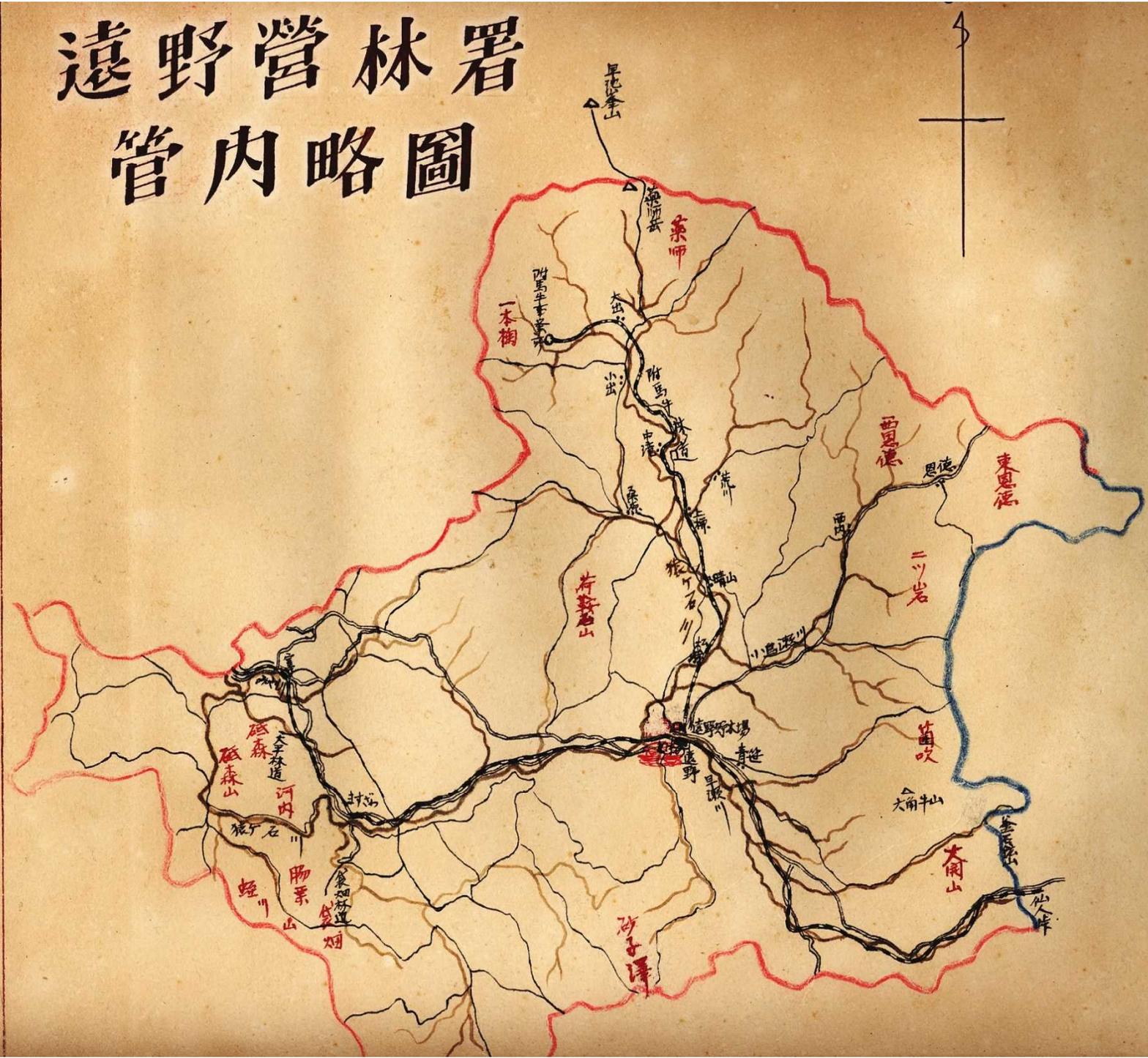


遠野營林署管内  
水害狀況寫真

昭和二十三年九月

青森營林局

# 遠野營林署 管内略圖



## 遠野貯木場

(面積 一、九六ha)

仙人峠方面から流れて来る早瀬川の氾濫で遠野町東端の堤防が欠壊、続いて早瀬橋際の縣道に溢流し之れも欠壊したので一瞬にして場内は濁流渦巻く修羅場と化してつた。

主なる損害は

建築物	流失	五棟	全壊	二棟	半壊	六棟
軌道	流散	一、五〇	米			
機関車	流出	四台				
トラツク	流出	一台				
貨車	流散	六〇台				
ブナ丸太	流散	五、三九	石			

## 附馬牛林道

(延長 二八、九七五 米)

総延長二九料のうち一八料に亘って被害を蒙つた。従来も局管内には水害による林道被害は屢々あつたが今回のこの林道の被害程度は正に空前のものと思ふ。

被害の最も甚しかったのは中瀧小出間で数ヶ所に亘り延長約二、五〇米は路体殆んど流失し基岩露出歩行も容易でない状態である。

# 管内水害状況に関する柳下局長言上書

天皇陛下御名代三笠宮殿下水害地御慰問に際し、局長より管内水害状況左記の如く言上す。

(一ノ関市に於て 十月一日)

管内國有林の水害状況を謹んで言上致します。

當局管内國有林は青森岩手宮城三縣にまたがる面積百四万余町歩の區域でありまして、内四万六千余町歩は昨年御料を合併致したもので御座います。

岩手縣の國有林は四十六万余町歩で同縣林野面積の四割五分を占め、宮城縣は十三万余町歩で同縣林野の三割五を占めて居りますが、此度のアイオン颱風(九月十六日)による被害は岩手縣の南半分、宮城縣の北半分を襲ふた次で御座います。其の被害は豫想より大きく九月二十八日迄判明せる被害の既況は左記の通りで、被害の最も大きかつた川井、遠野、岩泉、一ノ関、古川營林署部内で、夫れに次ぐのは水沢、花巻、仙台、盛岡、大槌營林署で御座います。

## 記

一、職員罹災戸数 八四戸 罹災者 三五四人(家族を含む)

二、土木事業被害 林道流失 一三八、九五六米 被害額 七二、〇〇〇、〇〇〇円

橋梁流失 三四三ヶ所 被害額 二八、二四六、〇〇〇円

貯水場 六ヶ所 被害額 六、四六五、〇〇〇円

海岸砂防 一ヶ所 被害額 九、〇〇〇、〇〇〇円

計 一〇、六八〇、〇〇〇円

三、伐採事業被害 作業林道 二、二九八米 被害額 四二二、〇〇〇円

用枝流失 三三八七四石 被害額 一、二八八、七〇〇円

薪枝流失 二七六棚 被害額 七〇三、〇〇〇円

木炭流失 三七、七二二俵 被害額 五、二六二、〇〇〇円

計 一九、二七四、〇〇〇円

四、其他 機關車流失 四輛 被害額 二〇〇、〇〇〇円

トラック流失 二台 被害額 一〇〇、〇〇〇円

建物流失 三八棟 被害額 二、〇二三、〇〇〇円

炭かま流失 一五基 被害額 四五〇、〇〇〇円

計 五、〇六八、〇〇〇円

合計 一三一、一四三、〇〇〇円

之れが復舊如何に依つては民生安定の基盤たる生活必需物資の木材、薪枝、木炭の生産は不可能となるので、之を控へ其の生産を益々要望される秋、局職員全力を傾注、あらゆる障害を排除し之れが復旧に努力し民生定を計り、國有林の使命を達成せんとするもので御座います。

九月十六日から十七日早朝にかけて  
岩手、宮城兩縣下を襲うたアイオン  
颱風は正に世紀的な猛威をふるつて各  
地に大被害を与へた。

これは北上山系に短時間のうちに急  
激な降雨があつたため廣大な山崩が  
起つたことが最大の原因で、そのため  
早池峯山を中心とした遠野、川井  
兩營林署管内の被害が特に甚大で  
あつた。

本寫真帖には災害の最も大きか  
つた遠野貯木場と附馬牛林道の被  
害狀況を輯録した。



濁流と化した遠野貯木場 其ノ一

(九月十七日午前の状況  
以下五葉遠野営林署撮影)



前 全 其ノニ

軌条（レール）は旧釜石線



前 全 其 一 三



前 全 其 / 四



前 全 其 / 五



遠野貯木場附近早瀬川の軌道橋プレートガーダ

(延長一〇八米)

→ ⊙ ←  
後方は遠野貯木場を隔てて遠野町を望む

九月二十三日の状況

以下 笹森 撮影



堤防欠壊個所附近より見た遠野貯水場構内

◎事務所



遠野貯木



場 全 景

前面には約五千石のぶな丸太が集積  
されておたが殆んど全部流散



貯水場中央部より堤防欠壊箇所を望む



貯木場内建築物の被害

(生産課長住宅)



貯水場内 機関庫自動車庫 貨車庫附近(全部流失)  
× ガソリン機関車



貯水場西端

(左方は早瀬川堤防)

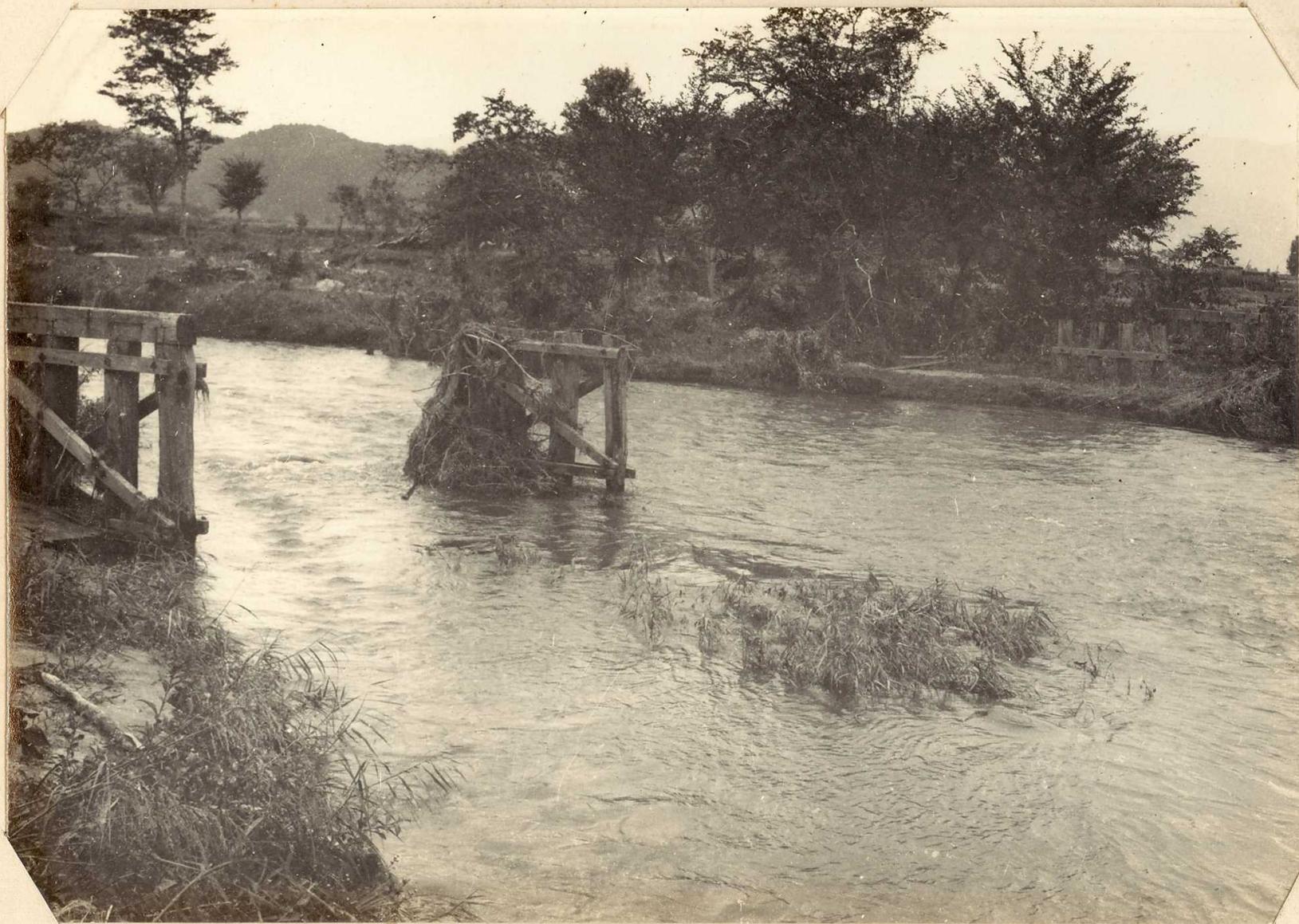


小鳥瀬川橋梁

(延長九一米)

(橋桁が全部押し流され二町程下流の松林に止まった)

大柳橋上流133m地点に架橋されていた。



前 全

対岸後方は、石田集落



上柳部落

上柳橋<sup>→</sup>流失跡<sup>←</sup>

(延長二五米)

対岸は根岸集落



上柳部落を過ぎ軌道が河流を離れてゐる個所へ  
来ると隨所に本寫真の様な路体崩壊が現れ始める  
崩壊の原因は巾一尺位の平素は殆んど目に付かぬ様  
な小川の氾濫によるものが多い。



附馬牛村 和野附近

(右下は村道、花崗岩基盤露出)



中瀧下の橋

(方杖橋 延長二五米)



中瀧部落 (六戸) 遠望

(中央は欠壤埋没した耕地)  
(軌道は右岸を通つてゐた)



中瀧部落下手約五〇〇米の地奥

——→ 最高水位

( 軌道路線  
軌条の跡方もない )



中瀧部落下手約二〇〇米の地桌

( 軌道路線  
軌条は流失し約二尺の厚さに  
土砂が堆積してある )



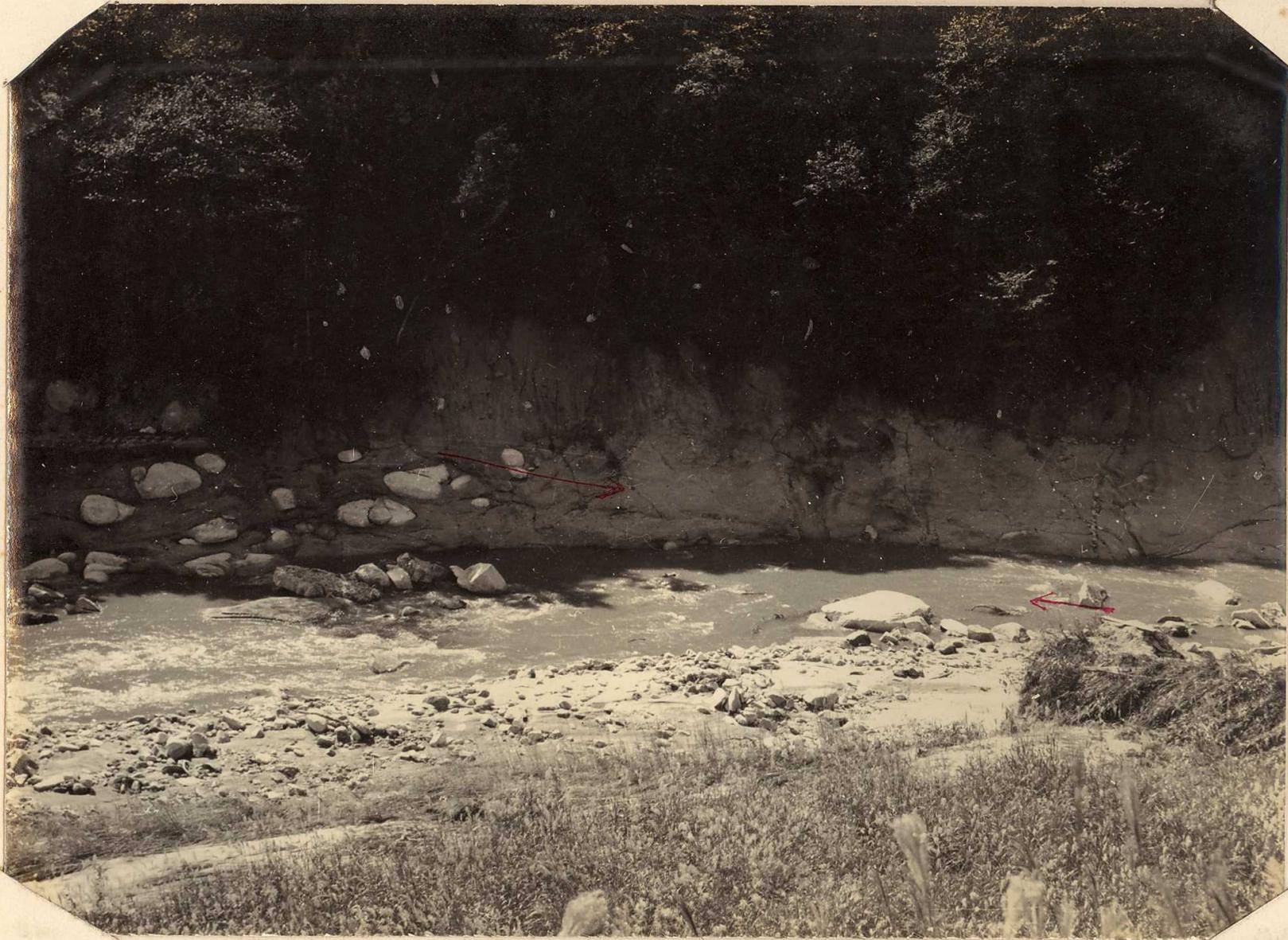
中瀧一小出間軌道流失跡

(路体はすっかり流はれて軌条は何処へ行ったか  
全然見当らない。  
左方電柱は花崗岩盤の落石に挟まれたため流  
失を免れたもの。)



中瀧上の橋流失跡

(方杖橋 延長三五米)



全 前



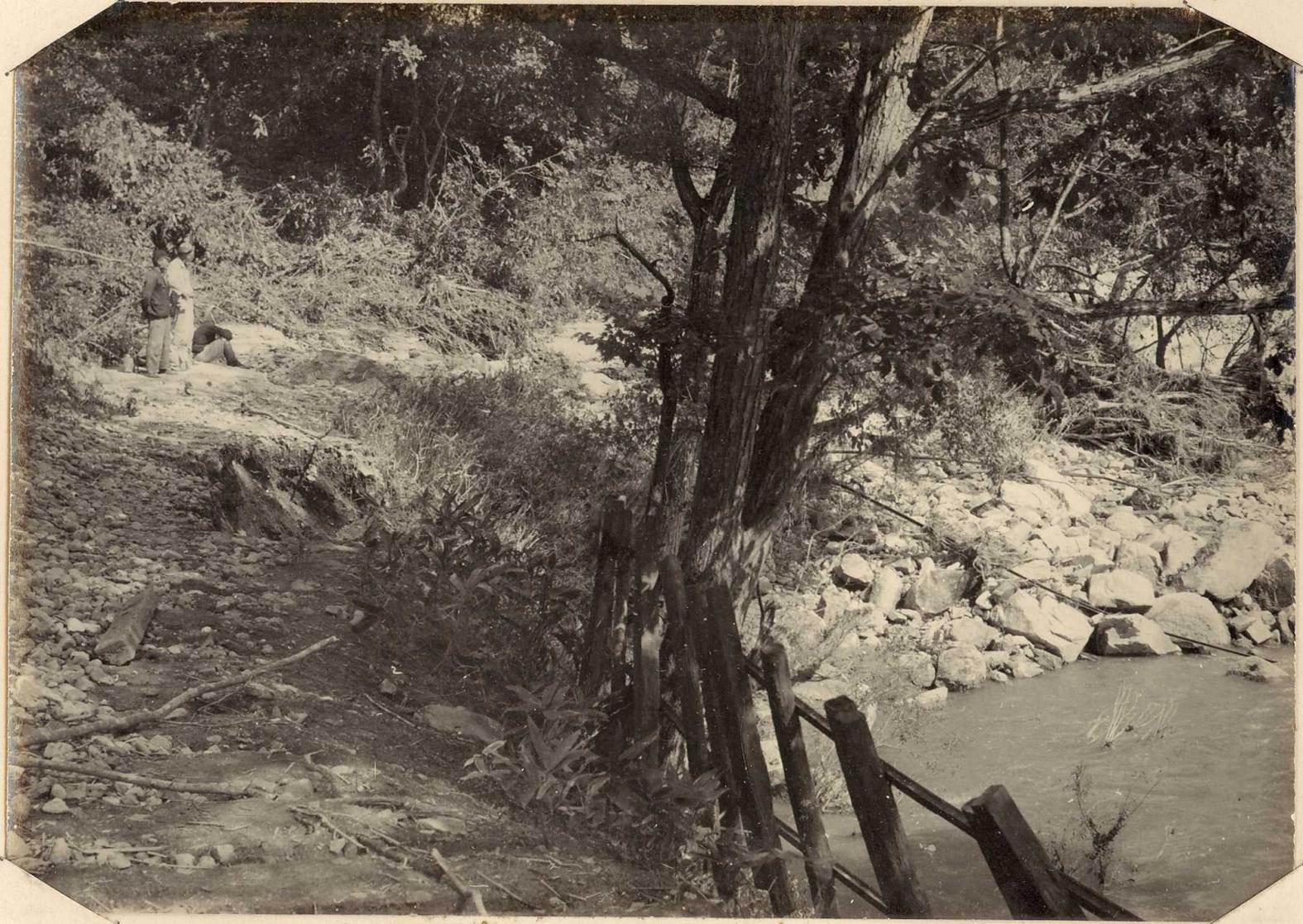
中瀧一小出間 軌道被害

(軌条の下は殆んど洞になつてゐる)



前 全

(基岩が極めて脆い花崗岩で其れを  
浅い土砂が蔽つてゐるに過ぎないた  
め字真のような崩壊が今后共頻々  
と発生するものと予想される)



中瀧一小出間 軌道被害



全 前



## 軌道被害

(樹木による欠壤防止)  
(前頁と同じ個所)

河流の湾曲部、水流の突当る個所は殆んど例外なく欠壤してゐるが此の地奥は珍らしく路体の被害を免れてゐる。原因は河岸に比較的多く樹木が生えてゐたためと認められる。部落の一部の人々は洪水の際は河端の水が根こそぎ流れて来て橋脚に突き当り橋を流したり田畑を荒したりしたから川端の木は全部伐つて欲しいと云つてゐるとのことであつたが、此の寫真で見ると或る程度に樹木が繁茂してゐると此の度の様な洪水にさへ負けない護岸の力を有してゐると云ふことが証明される。結局河岸には一層木を植えて欠壤を防ぐべきだと云ひ得る。此の寫真に寫つてゐる場所でも左端右端の木が少ない場所は比較的深く浸されてゐるのが判る。



中瀧一小出間

水流



### 中瀧一小出間 木炭倉庫流失跡

左方軌道跡、河流は右方約五〇米中央奥部に木炭倉庫が  
 あり當時は土木人夫五人滞在しておたのだが、当日は遠野町  
 のお祭りのため下山中で不在であつた。  
 自分達調査班が遠野へ歸る途中屈強の男達三人連れに  
 逢つた。此処に居た土木人夫達だと云ふ、寢具、商売道  
 具をすっかり流して了つたのだが、もうわざわざ行つても何  
 にもないから無駄だと云つても、兎も角行つて見なければ、  
 諦めがつかないと云つて止めるのもきかすに上つて行つた。



中瀧一小出間

(軌道から相当離れたところだが流散した軌条がこんなところに塵芥と一諸にたまっておた。水の威力の前には鋼鉄も塵芥も同じである。)



中瀧一小出間

(五〇〇米位の間全然路線の跡方  
もない個所が四ヶ所ある。)



前

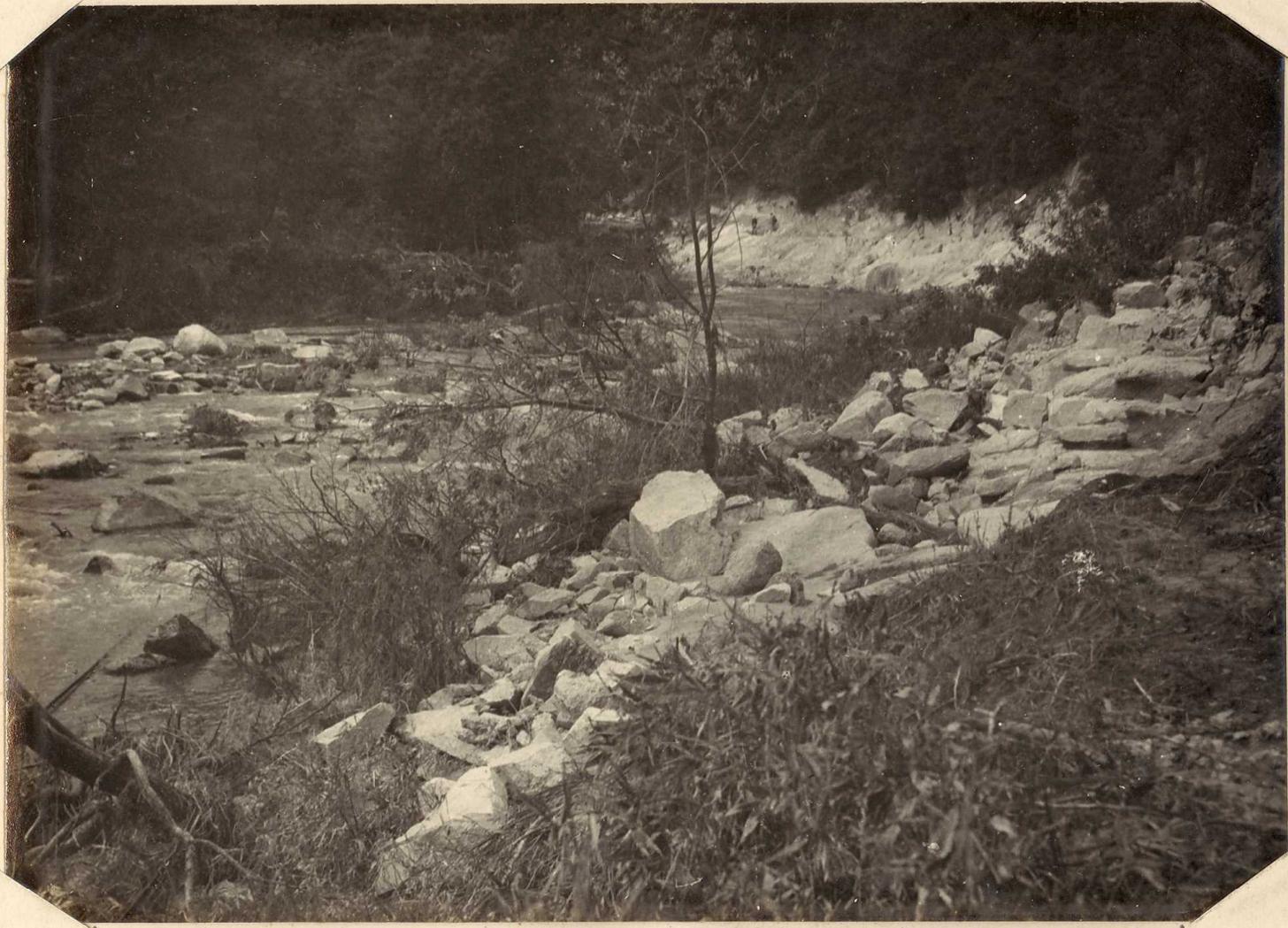
全



小出部落附近

下流側から向小出方面を撮影

(戸数三〇戸)



小出一大出間 道路欠壤

(組合道路)

(昨年の出水でニわれ其儘に  
なつておたもの)



大出部落附近軌道石垣欠壤



大出部落 大出橋流失跡

(一三戸)

(延長二五米)



上流側から撮影

大出部落を望む



大出一附馬牛事業所間

(此間は比較的被害は少なく  
此の程度の欠壤が数ヶ所あるのみ)



附馬牛官行事業所

軌道なくしては附馬牛の事業は成立たない  
 一本榑、薬師岳の広大な資源を擁して  
 開發の基地であつた。  
 此の事業所の今後の運命は一に林道の  
 復旧成るか成らぬかに掛つてゐる。

手倉森林道200m地点

附馬牛林道奥地の部落は中瀧六戸、小出三十戸、大出十三戸、  
で此外に最近國有林に入殖した開墾部落二十戸がある。

これ等の部落の唯一の生活ルートは此の附馬牛林道である。

國有林に依存し國有林によつて生活して來た部落の人々  
は軌道の壊滅によつて致命的な打撃を受け只管軌道の  
復旧を希つてゐる。

遠野營林署としても附馬牛の奥地國有林開發が生命  
線である以上此の林道の復旧は至急促進したいのだが、  
國有林經營が特別會計となつてゐる今日果して莫大  
な復旧予算が許されるかどうか前記部落の更生も考  
へてやらねばならぬ立場もあり難局を如何にして打  
開して行くか前途極めて多難なものがある。



水田に二尺以上も堆積した土砂を  
掘って僅かでもと収穫をする部落民



前

全



附馬牛村 桑原部落の老婆

本年七十五才 二十四才の女盛りの頃に大きな洪水があつたが、こんなにひどくはなかつたと語る。  
真に五十年ぶり半世紀に一度の大災害であつた。

撮

影

.....

笹

森

秀

雄

装

幘

.....

木

村

信

三

## ○撮影者 笹森秀雄

- ・青森営林局員。アイオン台風被害調査に従事。青森林友会※写真部にも所属。日本における山岳写真の草分的な存在として知られ、1950年には、日本主催の国際サロンに「海猫」1作品がフランス主催の国際サロンに「シイバード」と「インジョイングスキー」の2作品がサロンに入選し世界的にも注目された。特に、八甲田山を題材にした写真を多く撮影した。

※青森林友会は青森営林局の職員親睦団体で、文化部やスポーツ部を擁し、とりわけスキー部からは三浦敬三などの一流スキーヤーを輩出している。

## ○装丁者 木村信三

- ・青森営林局員。青森営林局のヒバの実を象った徽章の原型を制作するなど美術面での業績も残している人物。青森林友会庭球部に所属して軟式テニスプレイヤーとしても活躍、数々の大会で優勝している。1965年には、日本ソフトテニス連盟から地方功労者（青森支部）として表彰された。



アイオン台風水害記録

昭和23年9月

遠野町アイオン字真技術部



上組丁上手より  
上早瀬橋を望む

其の一

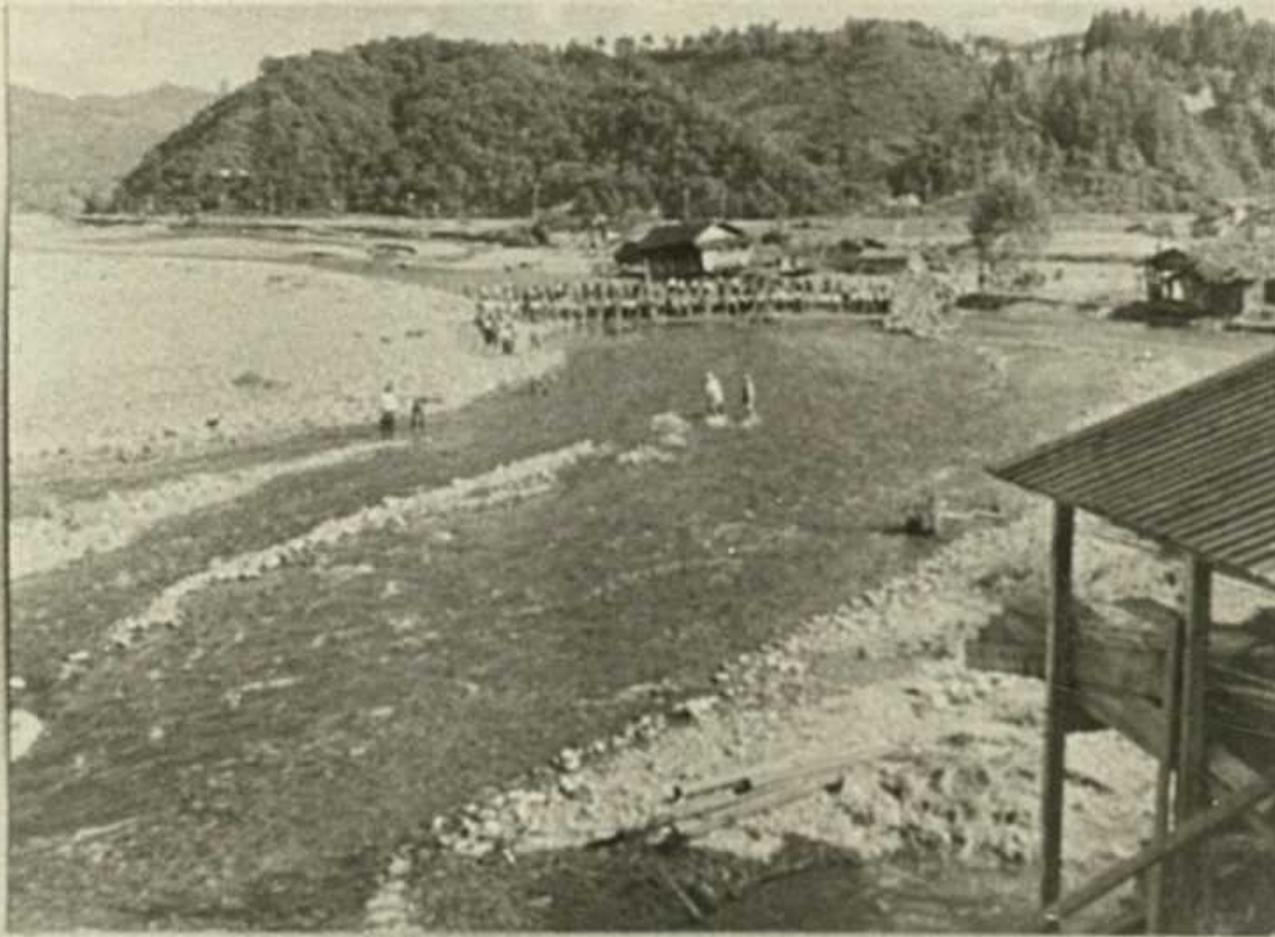


上組丁 上午より  
上早瀬橋を望む

其の二

上組丁より  
上流を望む

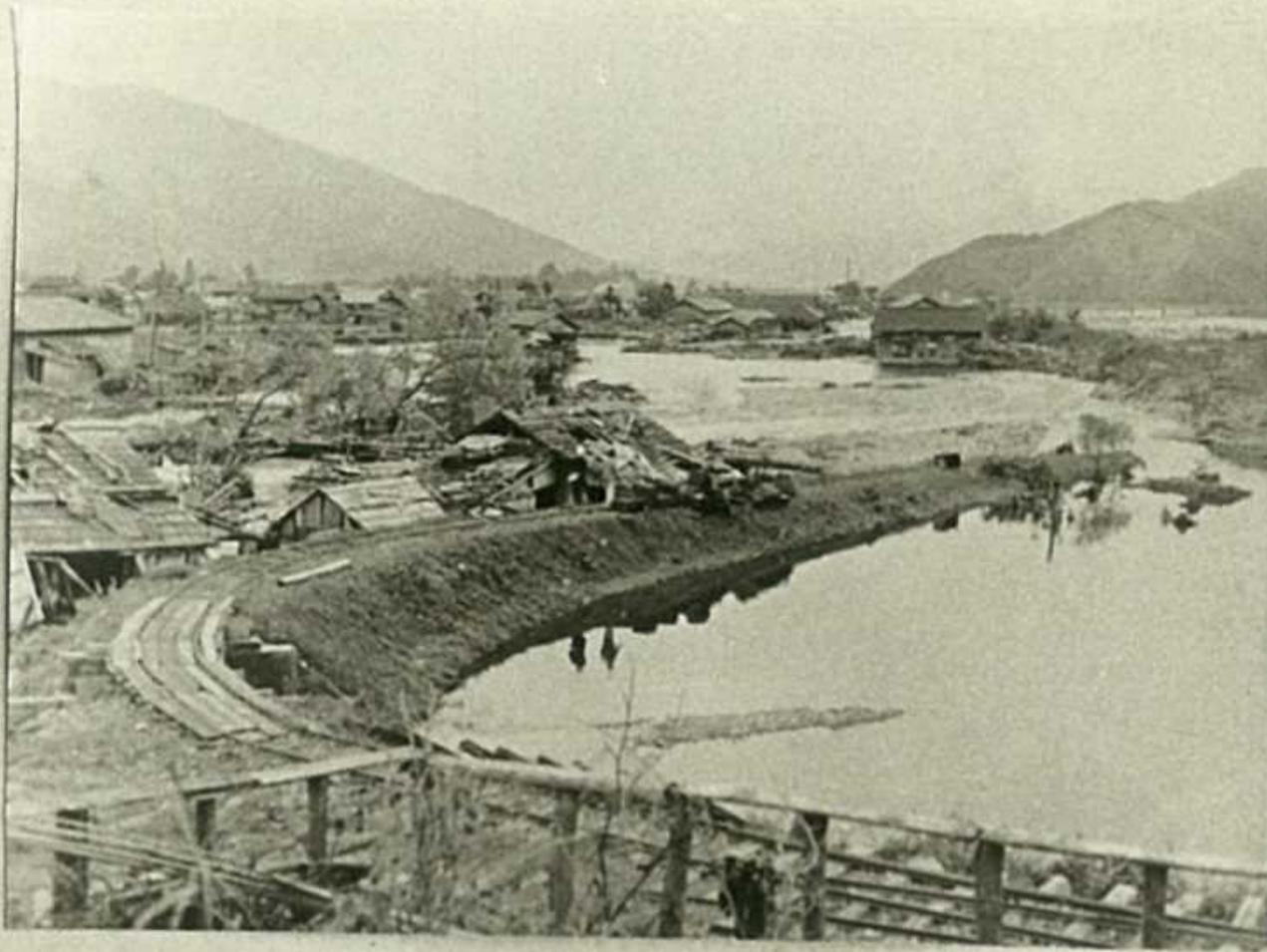




上早瀬橋上より  
欠懐口と望む

上早瀬橋上より

大工町方面を望む



早瀬川軌道橋に接続する森林軌道のスロープ部分とポイントが写っている。



下早瀬橋上より  
製材所方面を望む



まさに  
流失せんとする  
家屋

上組丁



湖水と化せる

遠野驛構

營林署貯木場

濁水に吞まる



家屋を押し流さんとする

激流





見渡す限りの濁水

貯木場



木杖の流失



奔流と共に流失する木栈

其の一



奔流と共に流失する木札

其の二

# 謝 辞

本展の開催にあたり、岩手県南広域振興局土木部遠野土木センター、遠野市立博物館、遠野市消防本部及び小笠原晋様（附馬牛町）から資料提供等の御協力をいただいております。

この場をお借りて厚く御礼申し上げます。